

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1290900016		
法人名	株式会社東京酸器		
事業所名	ディアフレンドならしの		
所在地	千葉県船橋市習志野1-13-17		
自己評価作成日	平成28年2月24日	評価結果市町村受理日	平成28年3月31日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ヒューマン・ネットワーク		
所在地	千葉県船橋市丸山2丁目10番15号		
訪問調査日	平成28年3月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・平成18年5月開設より御入居者10名の看取りをさせて頂いております。改めて限りある時間をその方らしく希望や思い通りに過ごして頂く事の重要性をチーム員一人一人が認識しております。
 ・日常平時より外出活動(買物等)等を通して、御入居者自身の楽しみや時間を個々のニーズに応える実践を取り組んでおります。又、町内会行事(納涼祭、子供神輿等)への御入居者の積極的参加や施設主催事業への地域住民の方々の参加等で相互交流の充実を取り組んでおります。
 ・御入居者の医療的サービスの充実施策として在宅療養支援診療所(機能強化型)の在宅診療や近在薬局による薬剤師の服薬管理指導、認知症サポート医による月1回の往診、提携医療機関による定期健康診断及びインフルエンザ予防接種実施等を積極展開し多職種連携を図っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者を尊重し「自分らしい普段の生活を続けて頂く」ために、職員育成に力を入れている。研修は内部で毎月約1時間実施し、介護技術の基本など11テーマを年間で実施している。また、外部研修に年間12回に1~2名が参加し伝達研修を実施している。職員個別研修履修歴を管理し、個人別目標の設定等により職員一人ひとりの育成に力を入れ、3年以上勤務し介護福祉士の資格獲得者が増えている。一方家族との連携を大切にして、毎月利用者別生活状況「グループホーム便り」やグループホーム全体の取り組み情報「ディアなら通信」を提供し、また、家族懇親会や誕生会への参加等を実施し、家族と職員の連携、信頼関係の構築に努めている。職員は家族からの感謝の声や意見・要望が働き甲斐となっている。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに 印	項目		取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+-) + (Enter+-)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	内部研修や会議等で話し合い、共通理解をし実践に繋げている。基本理念及び年度重点方針を明確にし、全職員に周知徹底を取り組んでいる。	「自分らしい普通の生活を続ける」理念を表明し、安全の充実、研修教育の充実、サービス実践の充実等3重点方針を掲げている。職員には毎月の会議や研修の場で理解が深まる様に努めている。	「自分らしい普通の生活を続ける」理念について、支援の在り方を職員が話し合い、実践を通じて一層深く理解する様に期待したい。
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議で町内と施設の行事計画について情報伝達、利用者と共に参加。日常的にも買い物等で挨拶をしている。町内会行事にも利用者も地域の一員として積極的参加している。	地域の納涼祭、子ども神輿、ホームの夏まつり等の行事で交流する機会があり、地域の防災訓練の参加や夜警の参加など地域の安全の取り組みに参加している。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設見学や電話相談は随時受付。また、パンフレットやチラシ等でわかりやすく作成配布している。認知症カフェを月1回開催する等して地域支援活動にも取り組んでいる。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の回数を重ねるごとに参加者からの意見、要望もあり、それについて取り組みサービス向上を図っている。	今年度は7回と熱心に運営推進会議を開催している。毎回、利用者状況、行事・地域交流、医療現状、職員体制、事故報告書など報告し、意見を聞きサービス改善に努めている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	法令的な事や事故報告等行い、より良いサービス向上に努めている。介護相談員の来所受け入れをし、実情の把握をして頂いている。来所日程もイベント等に同期した日常生活以外の場面で相談支援に取り組んでいる。	行政とは密に連携し、地域の高齢者ニーズに対応している。認知症カフェを開催し14人～20人の参加を得ている。	認知症カフェの開催は始まったばかりで2回の開催であるが、長く継続し定着することで地域での認知症の方を支える基盤の一つになる様に期待したい。
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設開所当時より周知徹底を図り、スタッフ入職時、オリエンテーションにて伝え理解を助けてもらっている。転倒事故においても、会議で話し拘束なしのケアを実践している。外部研修に参加後、他職員にも伝達講習を行っている。	身体拘束廃止・虐待防止等高齢者の権利擁護の研修を毎年実施し、言葉づかい等職員間で相互チェックし合い防止に努めている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者の身体観察に注意を払い発見時など申し送り、報告書提出。会議等で話し合い、虐待行為とならないよう対応方法等を検討、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に成年後見人を行っている方を講師として内部研修を実施、学び全スタッフ知識を得ている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書を説明、確認し同意を得ている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を通しての要望受け入れや面会時や面談時等で意見等を聞き対応、反映させるよう努めている。	家族には毎月グループホーム便り(利用者別生活情報)とデアなら通信(行事など全体情報)を送り、年1度の懇親会やケアプラン更新面談等の機会に意見を聞き運営に反映している。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	入職後の定期面談や随時相談。GH合同会議やユニット会議において意見や提案を聞き、可能な限り反映している。	職員の育成に力を入れ毎月の会議で1時間勉強会を実施している。外部研修は必ず伝達研修を実施し職員一人当たり年間6～10回の研修に参加している。毎月のケアカンファレンスの機会に職員意見を聞き運営に反映している。	利用者の医療的ニーズに対応した研修が多くなっている。同時に認知症の心理的支援の関わり方や声掛け方の研修も強化する様に期待したい。
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	面接時に部署希望を確認し配置している。また給与水準においても、介護福祉士資格取得後や未経験でも各自の能力により、昇給期間を早めたりして向上心を持てるよう努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外部研修の確保を行っている。またスキルアップの資格取得に対しての休み等の便宜を図っている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域近くの施設の運営推進会議に管理者・スタッフで参加すると共に、互いの行事等に参加。交流を図り、サービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に体験入居を実施。ご本人の意向・不安なことを確認、ご家族とも相談し、安心して過ごして頂けるような関係づくりに努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談案件時・体験入居時等は可能な限り受け入れできるよう傾聴・コミュニケーションを図り信頼関係を築くため、何度でも電話や面談に応じるよう努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学・面談・アセスメント時には情報収集に努め、見極めるようにしている。また必要時には他施設への紹介も行っている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活上できる事を見極め本人に行ってもらい、可能な限り一緒に行い自立支援を目標に良好な関係を築けるよう努めている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や行事の際に近況報告や相談を受け入れられるよう努めている。その為、居室担当を決めより密な連絡をとれるようにしている。また、個別外出等で一緒に過ごす時間を持つようにしている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	時間・場所・内容等によりご家族と相談の上、可能な限りの支援に努めている。また、ケアプラン等で自宅外出の支援を行っている。	家族や友人との交流が継続出来る様に自宅外出などの支援をしている。同時にホームに入居してからの馴染みを大切にして、利用者間の関係性構築や出張美容院・介護相談員等の馴染みの継続にも配慮している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人の状況を把握し、気の合う利用者の座席の考慮やレクリエーション・行事等でスタッフがより良い関係を保てるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	電話連絡や施設行事参加等で来所して頂くなど関係を保てるよう努めている。日常での御家族の関わりを保持できる様に取り組んでいる。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	居室担当者が主となり、思いを聞き取ったり職員間で何が本人にとって良いのか考え、家族と相談の上、本人本位・意向に添えるよう努めている。	利用者ごとに担当者(居室担当者)を決め「その人らしさ」を意識しながら、個々の思いや意向の把握に努めている。また、家族や計画作成担当者および他職員に相談しながら意見を取り入れている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時のアセスメント・生活歴調査表にて情報収集。また、入居後の対話やご家族面会時に聞き取りなど可能な限り把握できるよう努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居時のアセスメント・日中帯・夜間帯での観察を記録や会議で話し合い、各職員が利用者状況の把握に努め、ケアプランを実践している。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	居室担当者と計画作成者が本人・家族・その他関係者等と相談、意向等の確認をし、ユニット会議でカンファレンスを行い作成している。	計画作成担当者は、必要に応じて本人・家族・関係者との話し合いの場を設けている。また、本人・家族の意向を確認しながら月1回のユニット会議ではカンファレンスが実施され、介護計画に反映されている。	個々の課題抽出とケアのあり方について、ひもときシートを効果的かつ継続的に活用できるような仕組みの工夫に期待したい。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録・申し送り・夕礼・ユニット会議・連絡ノート等で情報を共有。ケアプラン作成に反映・実践や介護計画の見直しに努めている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	各ユニットとの連携を図りながら、利用者・家族等の状況に合わせ柔軟な支援に努めている。今年度の個別対応(外出)も状況やニーズに合わせた取り組みとなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散髪等は近くの理容室を来店したり訪問利用をしている。買い物も近くのコンビニやスーパーを利用している。また毎週1回パン屋さんが施設に来所。おやつに利用者が購入できるよう努めている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居契約時、ご本人・ご家族からの希望を取り入れている。外来受診時に家族が付添えない場合は施設で行い結果等をご家族へ報告している。	本人・家族の希望と心身の状況を考慮して、外来通院または訪問診療の適切な受診がおこなわれるよう支援している。訪問診療は、内科・歯科と認知症サポート医の神経内科がおこなっている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日健康チェックや観察で利用者の身体状況を把握「いつもと違う」と感じたら看護師に報告、指示を受け対応。さらに主治医や家族に報告。適切な受診や看護を受けられるよう支援に努めている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際、定期的な面会を行い、医療関係者・ご家族より情報収集し、スタッフに伝達。いつでも受け入れできるよう早期退院に備えている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人・ご家族へ終末期への意向の確認をし、施設でできる事の説明と同意を得た上で対応に取り組んでいる。一度方針を共有し全ての関係者で支援に努め実践したところ回復させた事もある。今後もチーム支援に努めていきたい。	契約時に、延命および治療に関しての意向確認をおこない、その後の状態変化時に終末期意向確認書で再確認をおこなっている。家族に対する説明は密にしながらチームケアを意識した対応が実践されている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部・外部研修を行っている。CPR/AED等の万が一に備えた、急変時対応トレーニングを全職員に実施継続している。今後も定期的に訓練を含め行っていきたい。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月1回、利用者・職員参加で避難訓練を定期的実施。今後も継続できるよう努める。町内会等の震災時の応援・連携も図れている。	毎月、ユニットごとに通報・初期消火・避難誘導等のテーマを決め計画的に訓練がおこなわれている。また、施設全体訓練も実施され、町内会等の地域関係者との連携体制も図れている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々を尊重し、尊厳を重視した話し方、プライバシーを損ねないようなケアが行えるように努めている。	パーソン・センタードケアの実践を目指し、人格の尊重を重視している。個々の声かけやプライバシーに関する留意点等は、介護計画にも記載し、職員間で共有できるようにしている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ケアを行う前に声掛けをし自己決定を促したり、声掛けを工夫することにより希望の表出できるように、またご本人の思いに気づき対応できるように努めていく。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人のペースに合わせ可能な限りの対応を行っている。しかし、自ら訴えない利用者の介助は職員都合になっている事もある。利用者のペースに合わせた介護にできるよう努めていきたい。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服等のご家族様に利用者の好みの物を持参して頂き、髪型も希望を取り入れている。日常的に自身で化粧を行っている方には化粧品等を確保・継続できるよう努めている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者のできる事を一緒に行っている。また、食事が楽しみなものになるよう、利用者の好みを聞き、外食や出前をとったり、調理レクなどを行っている。	個々の希望により、寿司・中華等の外食に出かけたり、出前をとることを実施。誕生会では、家族とともにおこなっている。食事は、同じ食材でも調理方法を変える等の工夫をし、調理レクでは、おやつ作りも取り入れている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食とこまめな水分補給を行っており、チェック表にて確認・記録し十分に確保できるよう努めている。また、栄養状態は主治医に相談。採血等で確認。利用者の状態に合わせて対応している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施。磨き残しは介助で行っている。拒否時は時間をずらし対応するなど努めている。また毎週歯科訪問もあり、歯科医や衛生士と連携を図り利用者様の支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	夜間立位困難な方はオムツ対応を行っているが、日中はトイレで排泄ができるよう二人介助を行っている。ご本人の動向チェック表にて個々の排泄パターンの把握にも努めている。	個々の排泄時間や動向等を観察し、排泄パターンの検討を職員間でおこない、共有徹底している。日中は全面的にトイレ排泄を支援するため、二人での介助をおこなっている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排泄チェック表で排便の確認をし、必要時は薬で調整し便秘予防に努めている。また運動や乳製品・繊維質の多い食事・水分量の確保にも努めている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的に入浴時間は午後としているが、個々の状況やその日の状況に合わせて臨機応変に対応し入浴をして頂けるよう努めている。また立位困難な方には安全な入浴として併設小規模の機械浴を使用している。	入浴が安全におこなえるよう、身体状況にあわせて福祉用具や機械浴等を取り入れ実施するだけでなく、個々の好みやこだわりにも配慮した支援がおこなわれている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床時間や就寝時間は決まっているが、夜間睡眠状況や朝の覚醒状況で起床は無理のないよう個々に合わせた対応をしている。日中は活動的に過ごしたり、個々の状況や体調に合わせて休息をとったりして過ごしている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の処方薬説明書を確認・把握。チェック表にて管理している。また、薬変更時は申し送りや処方ノートで連絡。降圧剤等は血圧測定を1日2回実施観察し主治医診察時に報告している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	好きな事、嫌いな事、出来る事などを把握し、個々に合わせた事をスタッフと共に行っている。また好物をおやつや外食等で提供している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	集団での外出対応が困難になってきた為、散歩・ドライブ・外出は個別対応を実施している。外食や行事等の外出時はご家族にも声をかけ一緒に出かけている。	年間の行事以外の日常的な外出は、集団ではなく個別に実施することで、希望の場所や時間にそえるよう工夫している。ドライブや外食は、家族とともに計画し、面会時も居室ではなく庭等に出られるよう声かけをおこなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を認識できる方が少なく、個人で支払う事は無いが、希望の物を購入できるように支援している。買い物も個別対応でかかっている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	部屋で電話をしたり、職員が窓口となり電話がかけられるよう対応している。手紙のやり取りは年賀状が主になっている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った飾りつけや写真等の作品を貼り出している。吹き抜けの中庭があり太陽の光が差込み明るく風通しも良く、また床暖房で温度調整も行い居心地よく過ごせるようにしている。	季節毎の飾りつけや行事の写真、誕生会のポスター等で季節の変化が味わえる配慮がしてある。また、明るい光の良く入る居間で、床暖房や空調設備で快適な空間を整備している。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂スペースの他、居間にソファとテレビを設置。他1ヶ所にソファを設置しくつろぎのスペースを確保。ゆっくりと過ごせるようにしている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本的に家具やベット他必要と思えるものは自由に持ち込んで頂いている。他写真や部屋の飾りつけ等はご家族と職員で行い、居心地よく過ごせるよう工夫している。	居室には個人の使い慣れた家具や家族の写真、また、入居後の写真集など飾り、ドア1つでプライバシーを尊重した空間となっている。職員が入室する場合必ずノックし挨拶して入室する様にしている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状況を把握し、トイレ・洗面台・浴室等に手すりを設置。安全で可能な限り自立した生活が送れるよう環境整備にも努めている。		